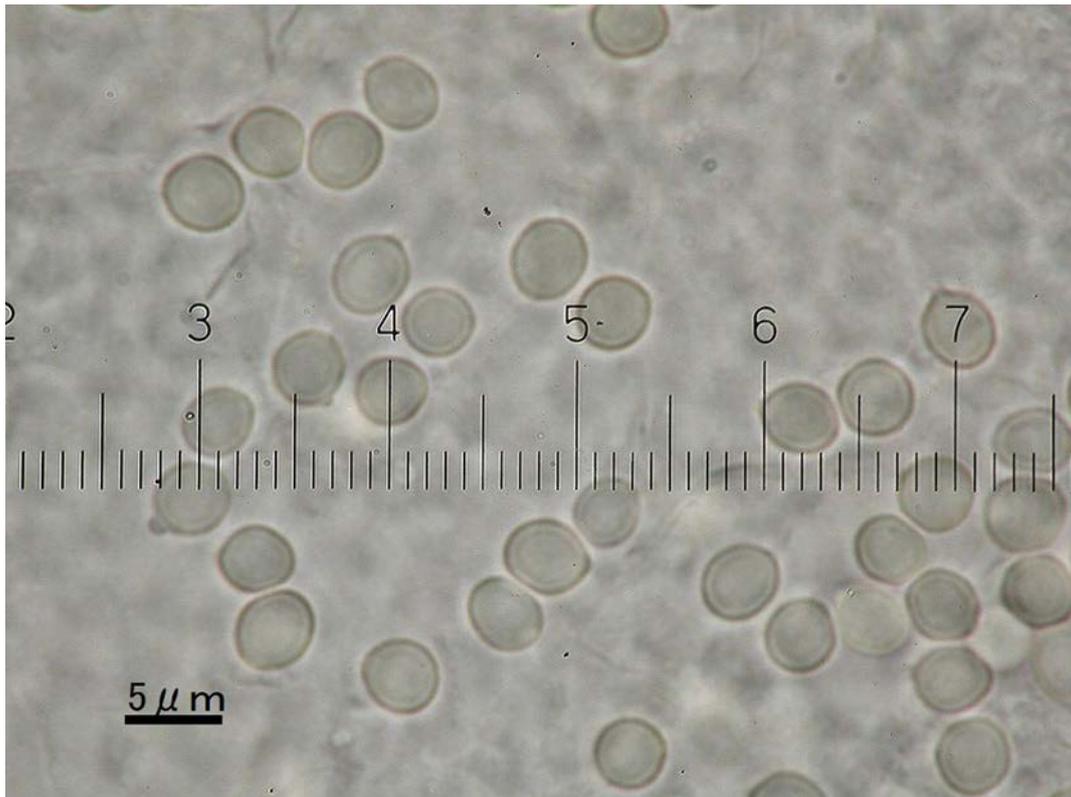


関西菌類談話会会報

2017年2月 No. 33



目 次

表紙 [シロクモノコタケ胞子写真]	小寺 祐三	1
第24回 (2015) きのこ展	衣田 雅人	2
第559回例会 ワークショップ 「旧腹菌類の観察法」に参加して	斎木 治子	3
きのこを描く講座Ⅱ	鎌田佐代子	6
2013年度活動の記録		10
表紙によせて, 会報記事投稿のご案内など	編集委員会	16

第24回 (2015) きのか展

衣 田 雅 人

第24回きのか展は、天候に恵まれ、2日間の来場者数は4,188人と前回より大幅に増加しました。また、きのか展スタッフの動員数は、延べ97人(前回76人)と前回より増加しました。今回も故上田先生がデザインされた手ぬぐいやTシャツ、50周年記念誌、本郷先生追悼号と上田夫人、奥澤先生から寄贈されたきのかグッズを販売しました。また、多くの方から差し入れを頂きました。

関西菌類談話会のきのか展の特徴は、写真パネルだけではなく生きのかを展示することです。今回展示した生きのかは264種(前は291種)で、10月の雨が少なかったので前回よりも少なくなりました。今回も信州きのかの会の三原会長や談話会の橋本先生からベニテングタケやマツタケなどの生きのかを送って頂きました。生きのかの展示は、土曜日の午前中に吉田山で採集したきのかを植物園に搬入し、相談コーナー(同定コーナー)で名前を付けたあと、ラベルを付けて展示します。また、来場者から持ち込まれたきのかもこのコーナーで同定します。

顕微鏡コーナーは、毎回小寺さんや佐久間さんのお世話により、開設しています。今回はミナト光学工業株式会社からLED光源のカラフルなデザインの顕微鏡を5台お借りすることができ、充実したコーナーになりました。

毒きのかコーナーでは、横山先生に作成していただいた「関西の毒きのか」のパンフレットを配布して、毒きのかを食べないように注意喚起しました。

きのか染の小物やきのかグッズも久山さんや岩田さんのご協力により、ガラスケースに入れて展示しています。また、きのかの絵画やきのかを使用したはり絵なども展示しました。

冬虫夏草コーナーは、梶山さんのお世話により開設しています。虫にきのかが生える事実を一目で確認できるので、多様な菌類の生態を説明できる教材になっています。

スタンプコーナーでは、きのかをデザインしたゴム印と色鉛筆などを配置しました。多くの方が押印したイラストに彩色していました。また、硬質きのかやパズルなどを配置した「きのかに触れ



第24回きのか展スタッフ一同



第24回きのこ展会場風景

るコーナー」も人気がありました。

また、きのこ展2日目の午後で開催される植物園教室も人気があり、会場は満席になりました。今回は森本さんにお話して頂きました。このように、きのこ展は多くの皆さんのご協力により開催しています。展示を見られた年配の外国人夫婦から、帰り際に「これほど素晴らしい展示はこれまで見

たことがない」と感謝され、励みになりました。

私は故上田先生の後を継いできのこ展実行委員長に就任しました。今年で10年目に入り、私も67歳になりました。そろそろ、きのこ展実行委員長を次の方に引き継いで頂きたいと考えています。

(2016年3月27日受付)

第559回例会 ワークショップ

「旧腹菌類の観察法」に参加して

齋木 治子

梅雨の最中の6月26日、大阪市立自然史博物館に、講師の糟谷大河先生（千葉科学大学危機管理学部環境危機管理学科）をお迎えして、「旧腹菌類の観察法」についてのワークショップが開催された。

私にとって、このグループのキノコは、日頃見かけても、同定のポイントがわからず、見て見ぬふりをするのを決め込んでいるものだったが、この講座を機会に少しでも、これらのキノコと親しくなれたらと思い参加した。



ワークショップという事で、午前中は、隣接する長居植物園で、観察・採集を行った。歩を進めると、すぐに植栽の縁の地面に、お目当ての旧腹菌類の丸いキノコが見つかった。いつも、ザラツキカタカワタケ？ヒメカタショウロ？どちらかな？と迷うキノコのようなのだ。早速、糟谷先生から、「キノコの基部のあたりに小さな穴のようなものが見えるのでザラツキカタカワタケでしょう。」という解説があった。今まで、その様な所は丁寧に見たことがなかったので、「なるほど。これで、ザラツキカタカワタケが同定できるようになるかも」と思った。

次の芝生ゾーンでは、白い、丸い小さなキノコが数多く出ていた。ここでも、糟谷先生の解説があった。「このキノコは、ヒメホコリタケで芝生に良く発生し、時にフェアリーリングを作ることもあり、ゴルフ場などでは、芝生の生育を阻害するので、害菌とされている」とのことだった。

続いて、竹林ゾーンへ、アカダマキノガサタケが発生しているかも、と探しに移動した。…その竹林の竹の切り株から、見たことのないキノコが束生してあちこちに発生していた。皆で、「ウラボニガサ属のきのこかな？」とか言いながら写真を撮っていたところ、そのキノコは、なんと、2013年に関西菌類談話会の総会の時に、糟谷先生が講演で紹介された「カヤバノクヌギタケ」だという事がわかった。

糟谷先生の講義の日に、このように沢山の子実体が発生していたのは、奇遇としか言いようがない。珍しいキノコの出現に、しばし旧腹菌類のことは忘れて、全員で盛り上がった。カヤバノクヌギタケは、放射状・かさぶた状に裂けた傘表皮の様子、柄のざらざらささくれた感じ、淡褐色のヒダなど、パッと見は、クヌギタケ属のキノコには

見えなかった。ヒダには縁取りがあり、顕微鏡観察が楽しみだと感じた。糟谷先生によると、竹からカヤバノクヌギタケが発生しているのを見るのは、ご自身も初めてとのことで（その可能性はあるとお考えだったそうだが）喜んでおられたのが、印象的だった。



竹から発生するカヤバノクヌギタケ
(名部みち代さん撮影)

ひとしきりカヤバノクヌギタケで盛り上がった後は、本題の旧腹菌類のキノコの搜索を再開。すると、すぐに、どこからか「シロクモノコタケがあった〜」という声。シロクモノコタケも、見たいと思っていたきのこだったので急いで駆け付けると、道の縁の何の変哲もない芝の上に、白い小さなキノコがコロコロ生えていた。先ほどのヒメホコリタケに比べると、表面に光沢があり、すべすべしていた。割ってみると、「シロクモノコ(白蜘蛛の子)タケ」と名前にあるように中は、小さなオリーブグリーン粒で満たされていた。先生のお話では、関西では見つかったが、関東では、見つかっていないとのことだった。この講座に参加したことで、2つもの「見たかったキノコ」に出会え、午前中にして、すでにかかなりの満足感を覚えた。



シロクモノコタケ (名部みち代さん撮影)

昼食後は、実習室で、採集されたキノコや、持ち込まれたキノコを使っての講義が行われた。その後、講義で学習した内容を、グループに分かれて、顕微鏡を使って実際に観察して確認した。

講義は、ホコリタケ類の肉眼的な観察法のお話から始まった。ホコリタケ類の子実体の部位の名称、構造など、今までも図鑑等で、なんとなく目にはしていたが、実際のキノコを見ながら、お話を聞くと、「なるほど」と思うことが多く、頭に入り易かった。続いて顕微鏡での、ホコリタケ類のキノコの観察についての説明に移り、弾糸のいろいろな型、殻皮の構造、外皮の型の違いについてなどのお話があった。

お話を伺いながら、今まで、旧腹菌類の仲間のきのこについて、申し訳程度に胞子をつまんでみるだけだったのが、胞子のほかにもいろいろ見なければいけない構造があるのを知り、実習が待ち遠しかった。



講義風景 (谷口雅仁さん撮影)

講義と、頂いた資料とで、「これで、大分賢くなった」と思ったが、実際に子実体を顕微鏡で観察してみると、実物は、教科書の通りの形をしておらず、外皮の刺や疣にしても、資料に載っている外皮の形態図の中から、「これだっ!」と判断するのは、素人には難しかった。胞子の微細な刺の形にしても、初めて見たのではなかなか、形の違いを見分けるのが難しいと思った。

そのような時、糟谷先生にお願いして、見て頂くと即座に、「これこれですね」とおっしゃるので、やはり、数を見れば、先生のように区別がつくようになるのだなと思った。

実習の間、糟谷先生は、あちこちからの「先生～」という声に、忙しくテーブルを回られ、丁寧

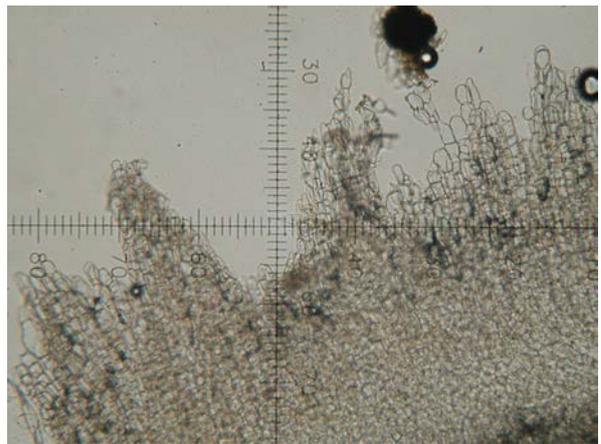
にご指導して下さった。疑問に思ったことに、すぐに回答がいただけ、その場で疑問が解決していくので、学ぶのが楽しかった。

楽しい時間は過ぎるのも早く、講座は16時に終了したが、糟谷先生のわかりやすいお話と、温厚なお人柄に、参加者(29名)は口々に、「参加してよかった」「楽しい講座だった」と感想を述べていた。

講座のお土産?にカヤバノクヌギタケ、シロクモノコタケ、アラゲホコリタケを持ち帰った。今までの私には、「アラゲホコリタケの外皮を切ってみる」という、発想は全くなかったが、資料の図に触発されて切片を作ってみた。



アラゲホコリタケ



アラゲホコリタケの外皮×200

今まで、敬遠していたグループのキノコだったが、この講座に参加して、新たな視界が広がった感があった。糟谷先生、長時間のご講義ありがとうございました。

(2016年6月30日受付)

きのこを描く講座II (2016.8.6 大阪市立自然史博物館)

記録 鎌田 佐代子

8月6日、昨年に続き「きのこを描く講座II」が開かれました。講師は井本小夜氏。井本さんは、広島きのこ同好会、菌類懇話会所属。日本植物画倶楽部にも所属しNHK文化センターでポタニカルアート講師を務めておられます。11名の参加者に世話人が加わっての講座になりました。午前中は、きのこの絵を描くことについて井本さんが実践しておられることとお話ししていただき、午後は、乾燥が続く中、斎木さんが走り回って集めて下さった貴重品の生きのこをモデルにして、実際に描きました。



広島から来阪して下さった井本夫妻



時には旦那さんがパソコン操作の助っ人に

井本さんは15年前頃からきのこを記録するために絵を描きはじめ、その絵はすでに約800枚に達しています。左側から自然光の入るアトリエで昼間に描いています。モデルの生きのこにダメージ

を与えないよう細心の注意を払いながら2日かかりで透明水彩絵の具で描いていきます。2日目、絵の具が乾いたら輪郭線を消しゴムで消し、不足部分のみ描き加えます。この時余計な加筆はしないと決めているそうです。

BBケント紙に鉛筆でデッサンするとき細かいところまでよく観察し、より実物に近く描くことが大事で、傘表皮の立体的なイボや針の質感、ヒダや連絡脈の陰影、特徴のある管孔の様子、傘の溝線とヒダの関係、柄の表皮の網目の立体感・隆起した網目の変色具合などなど、ルーペで観察しながら書き込んでいきます。「見えたものは描かざるをえない」「見えるものは見えたように描く」ということを自分に課し、描くために必死になって見るし、見えたように描くために必死になるのだと言われます。

お話を聞いていると、井本さんがきのこに向き合っている間の濃密な時間と真摯な姿勢が伝わってきます。井本さんは「なぜ絵を描くことが重要なのか」について、「細部まで細かく観察しないと描けない」し、「長時間きのこに向き合う」ことで発見があると言われます。長年描いているうちに、きのこの特徴を描き込むためには、そのきのこのどこが重要なのかという「きのこの基礎知識」を知っていること、できるだけ特徴をあらわしている典型的なものを描くことが大切なのだとわかってきたそうです。そのために、標本は良い状態のものをできるだけ早く描き、標本を横にしない、柄には触れないなど、標本の扱いには細心の注意を払っているとのこと。

「先入観で見ない。目の前のきのこを正確に写し取る。『あるがままに描き写す』のが私の描き方です。」と井本さんは結ばれました。たくさん見せていただいた資料の映像はどれだけ拡大してもクリアなまま。ごまかしが一切ない絵なのです。イグチの柄の網目模様の白いところは、ケント紙の白い地色のまま塗り残すとのことですが、神業かと思われるほどの緻密さです。昼休みに実物の絵を見せていただきました。検鏡図も鉛筆の手描き。しかし、そこに残された消しゴムの跡が、その格闘を物語っていました。本当に素晴らしいものを見せていただきました。ありがとうございました！



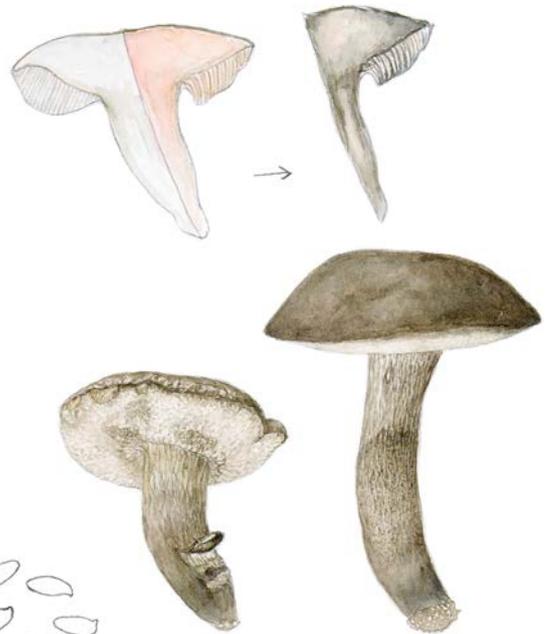
イボテングタケ
Amanita ibotengutake T. Oda, C. Tanaka & Tsuruta
 2007. 10. 4 甘日町富志和

イボテングタケ



ススケヤマドリタケ
Boletus kurotauchae Nagasawa
 2009. 7. 12 広島県廿日町富志和

ススケヤマドリタケ



クロニガイグチ
Tylopilus nigropurpureus (Corner) Hongo
 2006. 8. 5 広島市福田

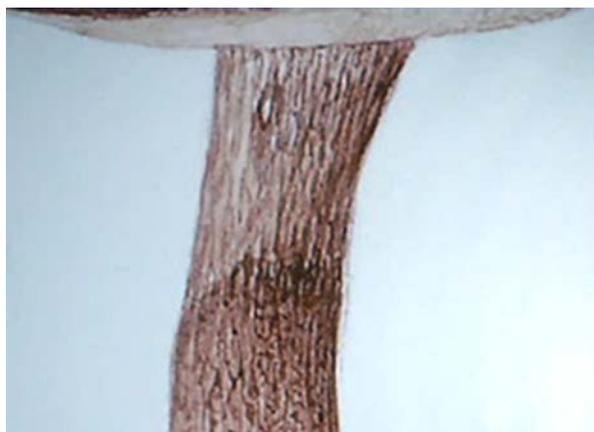
クロニガイグチ



ミヤマベニイグチ
Boletellus obscurecoccineus (Höhn.) Sing.
 2015. 7. 26 三原市御調八幡宮

ミヤマベニイグチ

(きのこ画写真 井本さん)



拡大してもクリアな柄の網目 (スクリーンを撮影)



鉛筆でデッサンをする



管孔もひとつずつ描かれている
(スクリーンを撮影)



井本さんにアドバイスをもらう

午後はいよいよ実習。気に入ったきのこを選び、まずは鉛筆でのデッサンから。室内は静寂そのもの。「実物大で描いてください。筆圧は軽めに。」と言いながら井本さんは全員の絵にアドバイスをして回ります。

デッサンが終わると、各自持参した絵の具や色鉛筆などで色をつけます。「色は明るい色から塗ります。絵の具は薄めに溶いて何回も塗り重ねます。」「ヒダの陰の色に注意して。陰の色は非常に大事です、自然な色で。」私は初めてヒダの陰を描くことに挑戦。井本さんに直してもらったとき「私は補色（赤系と緑系の色を混ぜる）を使って



井本さんを囲んで (写真井本さん)

色を出します。」と、実際に目の前で塗ってもらいました。とっても得をした感じです！

2時間ほどで完成しました。今日出席したのは

きのこ画に関心のある方ばかり。みなさん本当に上手です！



どれどれ、なるほど！



生徒作品



生徒作品



生徒作品



生徒作品



生徒作品 (写真協力 齋木達也さん)

2013年度 活動の記録

第517回例会 橿原神宮菌類観察会

日 時：2013年6月23日（日）雨のち曇
 37名参加
 場 所：奈良県橿原市橿原神宮境内林
 （シイ・カシ林）

空梅雨で乾燥していたところに、台風4号から変わった温帯低気圧と梅雨前線の雨が観察会数日前から降っていたのだが、キノコの発生まではまだ時間が必要らしく、採集種数は51種と少なかった。観察会の集合場所で集合写真を撮影してから、採集をしていただいた。雨が少し降ってきたが、2時頃の解散時には降り止んで助かった。同定されたキノコを参加していた世話役などで解説していただいた。採集品の一部は大阪市立自然史博物館で標本にいただいた。（丸山健一郎）

観察品リスト

1 <i>Schizophyllum commune</i>	スエヒロタケ
2 <i>Lentinellus ursinus</i>	イタチナミハタケ
3 <i>Gerronema nemorale</i>	オリーブサカズキタケ
4 <i>Leucopaxillus septentrionalis</i>	ムレオオイチョウタケ
5 <i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属
6 <i>Marasmiellus nigripes</i>	アシグロホウライタケ
7 <i>Marasmiellus</i> sp.	シロホウライタケ属
8 <i>Xerula</i> sp.	ビロードツエタケ（広義）
9 <i>Oudemansiella radicata</i> s.l.	ツエタケ（広義）
10 <i>Marasmius maximus</i>	オオホウライタケ
11 <i>Mycena sanguinolenta</i>	ヒメチシオタケ
12 <i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
13 <i>Mycena rorida</i>	ヌナワタケ
14 <i>Cyptotrama asprata</i>	ダイダイガサ
15 <i>Amanita ceciliae</i>	テングツルタケ
16 <i>Pluteus leoninus</i>	ベニヒダタケ
17 <i>Pluteus</i> sp.	ミヤマベニヒダタケ（仮称）
18 <i>Pluteus</i> sp. No 1	ウラベニガサ属 No 1
19 <i>Pluteus</i> sp. No 2	ウラベニガサ属 No 2
20 <i>Coprinus micaceus</i>	キララタケ
21 <i>Coprinus plicatilis</i>	ヒメヒガサヒトヨタケ
22 <i>Psathyrella candolleana</i>	イタチタケ
23 <i>Psathyrella cineraria</i>	ハイイロイタチタケ
24 <i>Psathyrella</i> sp.	ナヨタケ属
25 <i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属
26 <i>Crepidotus badiofloccosus</i> ?	クリゲノチャヒラタケ?
27 <i>Crepidotus subsphaerosporus</i> ?	ニセコナカブリ?
28 <i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属

29 <i>Simocybe</i> sp.	ビロードムクエタケ属
30 <i>Boletus subvelutipes</i>	アメリカウラベニイロガワリ
31 <i>Russula sororia</i>	キチャハツ
32 <i>Russula cyanoxantha</i> ?	カワリハツ?
33 <i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
34 <i>Russula lilacea</i> ?	ウスムラサキハツ?
35 <i>Russula kansaiensis</i>	ヒナベニタケ
36 <i>Russula</i> sp.	ベニタケ属
37 <i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属
38 <i>Deflexila fascicularis</i>	シダレハナビタケ
39 <i>Phanerochaete crossa</i>	カミウロコタケ
40 <i>Polyporus arcularius</i>	アミスギタケ
41 <i>Laetiporus versisporus</i>	ヒラフスベ
42 <i>Ganoderma lucidum</i>	マンネンタケ
43 <i>Elfvigia applanata</i> s.l.	コフキササルノコシカケ（広義）
44 <i>Phellinus gilvus</i>	ネンドタケ
45 <i>Scleroderma</i> sp.	ニセショウロ属
46 <i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
47 <i>Auricularia auricula</i>	キクラゲ
48 <i>Cordyceps annullata</i>	ヒメクチキタンポタケ
49 <i>Cordyceps</i> sp.	イトヒキミジンアリタケ
50 <i>Cordyceps nutans</i>	カメムシタケ
51 <i>Beauveria</i> sp.	ポーベリア属

第518回例会 箕面公園菌類観察会

日 時：2013年7月14日（日）晴
 26名参加
 場 所：大阪府箕面市箕面公園南部
 （シイ・カシ林）

阪急箕面駅前に集合し、一ノ橋に移動、簡単な説明の後、観察開始。梅雨時期のベストシーズンなのに、思いのほか乾燥しており、ベニタケ類すら見当たらない。そのような中でも、ハマクサギタマゴタケはいつもどおり顔を出しており、存在感を示していた。同定会場のあづまやでは、例年だと新聞紙の上は置き場に困るくらい満員になるのだが、ガラガラだった。それでも、83枚の同定カードに記入してもらい、72種が確認できた。（山田裕司）

観察品リスト

1 <i>Laccaria bicolor</i>	オオキツネタケ
2 <i>Laccaria vinaceoavellanea</i>	カレバキツネタケ
3 <i>Xerula pudens</i>	ビロードツエタケ

4 <i>Megacollybia clitocyboidea</i>	ヒロヒダタケ
5 <i>Cyptotrama asprata</i>	ダイダイガサ
6 <i>Amanita pantherina</i>	テングタケ
7 <i>Amanita punctata</i>	オオツルタケ
8 <i>Amanita fulva</i>	カバイロツルタケ
9 <i>Amanita longistriata</i>	タマゴテングタケモドキ
10 <i>Amanita pseudoporphyria</i>	コテングタケモドキ
11 <i>Amanita excelsa</i>	キリンタケ
12 <i>Amanita spissacea</i>	ヘビキノコモドキ
13 <i>Amanita griseofarinosa</i>	コナカブリテングタケ
14 <i>Amanita</i> sp.	ハマクサギタマゴタケ (仮称) ?
15 <i>Inocybe lutea</i>	キイロアセタケ
16 <i>Inocybe</i> sp.	アセタケ属
17 <i>Crepidotus mollis</i>	チャヒラタケ
18 <i>Strobilomyces seminudus</i> ?	コオニイグチ ?
19 <i>Strobilomyces strobilaceus</i> ?	オニイグチ ?
20 <i>Austroboletus gracilis</i>	クリカワヤシャイグチ
21 <i>Austroboletus subvirens</i>	オオヤシャイグチ
22 <i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
23 <i>Heimioporus japonicus</i>	ベニイグチ
24 <i>Gyroporus longicystidiatus</i>	クリイロイグチモドキ
25 <i>Phylloporus bellus</i>	キヒダタケ
26 <i>Phylloporus</i> sp.	イロガワリキヒダタケ近縁種
27 <i>Boletus subtomentosus</i>	アワタケ
28 <i>Boletus nigromaculatus</i>	クロアザアワタケ
29 <i>Xerocomus</i> sp.	アワタケ属
30 <i>Pulveroboletus auriflammeus</i>	ハナガサイグチ
31 <i>Boletus reticulatus</i>	ヤマドリタケモドキ
32 <i>Boletus violaceofuscus</i>	ムラサキヤマドリタケ
33 <i>Boletus aokii</i>	ヒメコウジタケ
34 <i>Boletus subcinnamomeus</i>	サザナミイグチ
35 <i>Boletus subvelutipes</i> ?	アメリカウラベニイロガワリ ?
36 <i>Tylopilus chromapex</i>	アケボノアワタケ
37 <i>Tylopilus nigropurpureus</i>	クロニガイグチ
38 <i>Porphyrellus fumosipes</i>	アイズメクロイグチ
39 <i>Rubinoboletus ballouii</i>	キニガイグチ
40 <i>Tylopilus ferrugineus</i>	チャニガイグチ
41 <i>Leccinum extremiorientale</i>	アカヤマドリ
42 <i>Russula decolorans</i>	ススケベニタケ
43 <i>Russula compacta</i>	アカカバイロタケ
44 <i>Russula pectinatoides</i>	ニセクサハツ
45 <i>Russula sororia</i>	キチャハツ
46 <i>Russula bella</i>	ニオイコベニタケ
47 <i>Russula amoena</i>	ムラサキカスリタケ
48 <i>Russula violeipes</i>	ケショウハツ
49 <i>Russula flavida</i>	ウコンハツ
50 <i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
51 <i>Lactarius piperatus</i>	ツチカブリ
52 <i>Lactarius volemus</i>	チチタケ
53 <i>Lactarius</i> sp.	アカシミヒメチチタケ (仮称)
54 <i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属
55 <i>Polyporus arcularius</i>	アミスギタケ
56 <i>Polyporus varius</i>	キアシグロタケ
57 <i>Microporus affinis</i>	ウチワタケ
58 <i>Grifola frondosa</i>	マイタケ

59 <i>Laetiporus miniatus</i>	マスタケ
60 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
61 <i>Daedalea dickinsii</i>	ホウロクタケ
62 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
63 <i>Ganoderma applanatum</i>	コフキササルノコシカケ
64 <i>Hymenochaete cyclolamellata</i>	ワヒダタケ
65 <i>Scleroderma</i> sp. No 1	ニセシヨウロ属 No 1
66 <i>Scleroderma</i> sp. No 2	ニセシヨウロ属 No 2
67 <i>Jansia borneensis</i>	コイヌノエフデ
68 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
69 <i>Auricularia auricula-judae</i>	キクラゲ
70 <i>Dicephalospora rufocornea</i>	ニセキンカクアカビョウタケ
71 <i>Ionomidotis frondosa</i>	クロハナビラタケ
72 <i>Microstoma floccosum</i>	シロキツネノサカズキ

第520回例会 龍谷の森菌類観察会

日 時 : 2013年 9月 8日 (日) 晴

40名参加

場 所 : 滋賀県大津市龍谷の森・里山

(コナラ中心の雑木林)

夏から続く降水量不足は9月に入っても解消されず、山はかなり乾燥気味だった。それでも、テングタケ属、イグチ類を中心に観察できた。例年のように源内峠コースと龍谷の森コースの二つに分けて記録され、源内峠コース50種、龍谷の森コース53種、両コースを統合し、重複したものを省くと、87種となった。鳥取から長澤栄史先生が参加されていたので、採集品について種の解説をしていただいた。他に関西菌類談話会の役員などが種の解説を行った。また、学生諸君が多く参加していたので、大学、専門学校を代表して1校1人「今回の観察会に参加した理由、また参加してみて思ったこと」などを語っていただき、交流を行った。(森本繁雄)

龍谷の森観察品リスト

1 <i>Xerula sinopudens</i>	コブリビロードツエタケ
2 <i>Callistosporium luteoolivaceum</i>	ヒメキシメジ
3 <i>Collybia peronata</i>	ワサビカレバタケ
4 <i>Panellus stypticus</i>	ワサビタケ
5 <i>Oudemansiella venosolamellata</i>	スメリツバタケモドキ
6 <i>Marasmius pulcherripes</i>	ハナオチバタケ
7 <i>Amanita farinosa</i>	ヒメコナカブリツルタケ
8 <i>Amanita longistriata</i>	タマゴテングタケモドキ
9 <i>Amanita pseudoporphyria</i>	コテングタケモドキ
10 <i>Amanita japonica</i>	ハイイロオニタケ
11 <i>Chlorophyllum molybdites</i>	オオシロカラカサタケ
12 <i>Leucocoprinus birnbaumii</i>	コガネキヌカラカサタケ

13 <i>Leucocoprinus fragilissimus</i>	キツネノハナガサ	12 <i>Lepiota</i> sp. No 1	キツネノカラカサ属 No 1
14 <i>Leucocoprinus</i> sp.	キヌカラカサタケ属	13 <i>Lepiota</i> sp. No 2	キツネノカラカサ属 No 2
15 <i>Agaricus campestris</i>	ハラタケ	14 <i>Lepiota</i> sp. No 3	キツネノカラカサ属 No 3
16 <i>Agaricus praeclaresquamosus</i>	ナカグロモリノカサ	15 <i>Crepidotus</i> sp.	チャヒラタケ属
17 <i>Lepiota clypeolaria</i>	ワタカラカサタケ	16 <i>Entoloma murratii</i>	キイボカサタケ
18 <i>Lepiota</i> sp.	キツネノカラカサ属	17 <i>Entoloma album</i>	シロイボカサタケ
19 <i>Psathyrella candoliana</i>	イタチタケ	18 <i>Entoloma quadratum</i>	アカイボカサタケ
20 <i>Hebeloma vinosophyllum</i>	アカヒダワカフサタケ	19 <i>Entoloma cyanonigrum</i>	コンイロイッポンシメジ
21 <i>Gymnopilus penetrans</i> ?	キツムタケ ?	20 <i>Entoloma kijuense</i>	ナスコンイッポンシメジ
22 <i>Entoloma rhodopolium</i> ?	クサウラベニタケ ?	21 <i>Entoloma</i> sp. No 1	イッポンシメジ属 No 1
23 <i>Entoloma omiense</i> ?	ウスキモミウラモドキ ?	22 <i>Entoloma</i> sp. No 2	イッポンシメジ属 No 2
24 <i>Entoloma murratii</i>	キイボガサタケ	23 <i>Entoloma</i> sp. No 3	イッポンシメジ属 No 3
25 <i>Entoloma quadratum</i>	アカイボガサタケ	24 <i>Entoloma</i> sp. No 4	イッポンシメジ属 No 4
26 <i>Entoloma</i> sp. No 1	イッポンシメジ属 No 1	25 <i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ
27 <i>Entoloma</i> sp. No 2	イッポンシメジ属 No 2	26 <i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ
28 <i>Paxillus atrotomentosus</i>	ニワタケ	27 <i>Phylloporus orientalis</i> ?	アカエノイログワリキヒダタケ ?
29 <i>Boletellus emodensis</i>	キクバナイグチ	28 <i>Boletus laetissimus</i>	ダイダイイグチ
30 <i>Pulveroboletus auriflammeus</i>	ハナガサイグチ	29 <i>Boletus</i> sp.	フリルイグチ (仮称)
31 <i>Boletaceae</i> sp.	ニセヌメリコウジタケ (仮称)	30 <i>Tylopilus fumosipes</i>	アイゾメクロイグチ
32 <i>Boletus umbriniporus</i>	コゲチャイログワリ	31 <i>Tylopilus valens</i>	ホオベニシロアシイグチ
33 <i>Tylopilus valens</i>	ホオベニシロアシイグチ	32 <i>Tylopilus alutaceoumbrinus</i>	フモトニガイグチ
34 <i>Tylopilus argillaceus</i>	アシボソニガイグチ	33 <i>Russula alboareolata</i>	ヒビワレシロハツ
35 <i>Leccinum extremiorientale</i>	アカヤマドリ	34 <i>Russula</i> sp.	リュウコクヒナベニタケ (仮称)
36 <i>Russula sororia</i>	キチャハツ	35 <i>Xylobolus spectabilis</i>	モミジウロコタケ
37 <i>Russula</i> sp.	リュウコクヒナベニタケ (仮称)	36 <i>Phanerochaete crossa</i>	カミウロコタケ
38 <i>Cantharellus cinnabarinus</i>	ベニウスタケ	37 <i>Mycocacia capelandii</i>	サガリハリタケ
39 <i>Artomyces</i> sp.	フサヒメホウキタケ 近縁種	38 <i>Steccherinum murashkinskyi</i>	ニセニクハリタケ
40 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ	39 <i>Cryptoporus volvatus</i>	ヒトクチタケ
41 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ	40 <i>Tyromyces chioneus</i>	オシロイタケ
42 <i>Antrodiella zonata</i>	ニクウスバタケ	41 <i>Oligoporus caesius</i>	アオゾメタケ
43 <i>Trichaptum abietinum</i>	シハイタケ	42 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
44 <i>Trichaptum biforme</i>	ハカワラタケ	43 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
45 <i>Calostoma japonicum</i>	クチベニタケ	44 <i>Trichaptum biforme</i>	ハカワラタケ
46 <i>Geastrum triplex</i>	エリマキツチグリ	45 <i>Perenniporia ochroleuca</i>	ウズラタケ
47 <i>Geastrum mirabile</i>	ヒナツチガキ	46 <i>Pisolithus tinctorius</i>	コツブタケ
48 <i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ	47 <i>Geastrum mirabile</i>	ヒナツチガキ
49 <i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ	48 <i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
50 <i>Kobayasia nipponica</i>	シラタマタケ	49 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
51 <i>Tremella fuciformis</i>	シロキクラゲ	50 <i>Podostroma cornu-damae</i>	カエンタケ
52 <i>Isaria takamizusanensis</i>	セミノハリセンボン		
53 <i>Podostroma cornu-damae</i>	カエンタケ		

源内峠観察品リスト

1 <i>Tricholomopsis sasae</i>	ササアカゲタケ
2 <i>Callistosporium luteoolivaceum</i>	ヒメキシメジ
3 <i>Collybia peronata</i>	ワサビカレバタケ
4 <i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属
5 <i>Marasmiellus</i> sp.	シロホウライタケ属
6 <i>Strobilurus ohshimae</i>	スギエダタケ
7 <i>Xeromphalina campanella</i>	ヒメカバイロタケ
8 <i>Pluteus</i> sp.	ウラベニガサ属
9 <i>Chlorophyllum molybdites</i>	オオシロカラカサタケ
10 <i>Leucocoprinus fragilissimus</i>	キツネノハナガサ
11 <i>Lepiota subcitrophylla</i>	キヒダカラカサタケ

第521回例会 日和田高原菌類観察会

日 時：2013年9月21日(土)～23日(月) 晴
 35名参加
 場 所：岐阜県日和田高原
 (シラビソ・コメツガなど)

日和田高原での2回目の宿泊観察会。昨年からの反省から京都駅での貸切バス集合時刻を遅らせた。途中高速道路が大渋滞であったが、運転手さんの情報収集が功を奏して一部の渋滞は回避できた。御嶽山の姿も見れた。信州きのこの会の方々とは

食を食べ、きのこ談義やスライド会を楽しんだ。部屋割りをファミリーコテージや和室を中心に押さえたことも良かったようだ。2日目の採集日は天気も良く、シラカバやコメツガなどの森でベニテングタケほか多くの関西では出会えないキノコを採集観察することができた。採集標本の一部は、現地に持ち込んだ乾燥機で乾燥させ、大阪市立自然史博物館へ収蔵いただくことになった。
(丸山健一郎)

観察品リスト

- 1 *Panus suavissimus* ニオイカワキタケ
- 2 *Hygrophorus purpurascens* サクラシメジモドキ
- 3 *Hygrophorus russula* サクラシメジ
- 4 *Hygrophorus speciosus* コガネヌメリガサ
- 5 *Hygrophorus camarophyllus* ヤギタケ
- 6 *Hygrocybe conica* アカヤマタケ
- 7 *Hygrocybe punicea* ヒイロガサ
- 8 *Hygrocybe* sp. No 1 アカヤマタケ属 No 1
- 9 *Hygrocybe* sp. No 2 アカヤマタケ属 No 2
- 10 *Hygrocybe* sp. No 3 アカヤマタケ属 No 3
- 11 *Lyophyllum connatum* オシロイシメジ
- 12 *Lyophyllum sykosporum* カクミノシメジ
- 13 *Lyophyllum semitale* スミヅメシメジ
- 14 *Laccaria amethystea* ウラムラサキ
- 15 *Laccaria bicolor* オオキツネタケ
- 16 *Clitocybe clavipes* ホテイシメジ
- 17 *Clitocybe* sp. カヤタケ属
- 18 *Tricholomopsis decora* キサマツモドキ
- 19 *Tricholoma sejunctum* アイシメジ
- 20 *Tricholoma terreum* クマシメジ
- 21 *Tricholoma fulvum* ? キヒダマツシメジ?
- 22 *Tricholoma ustale* カキシメジ
- 23 *Tricholoma* sp. キシメジ属
- 24 *Armillariella mellea* ナラタケ
- 25 *Armillariella mellea* s.l. ナラタケ (広義)
- 26 *Armillariella* sp. ナラタケ属
- 27 *Collybia cookei* タマツキカレバタケ
- 28 *Collybia* sp. モリノカレバタケ属
- 29 *Mycena haematopoda* チシオタケ
- 30 *Mycena pelianthina* アカバシメジ
- 31 *Mycena acicula* ベニカノアシタケ
- 32 *Mycena* sp. クヌギタケ属
- 33 *Xeromphalina campanella* ヒメカバイロタケ
- 34 *Leucopholiota decorosa* ツノシメジ
- 35 *Amanita farinosa* ヒメコナカブリツルタケ
- 36 *Amanita muscaria* ベニテングタケ
- 37 *Amanita rubrovolvata* ヒメベニテングタケ
- 38 *Amanita pantherina* テングタケ
- 39 *Amanita ibotengutake* イボテングタケ
- 40 *Amanita vaginata* var. *vaginata* ツルタケ
- 41 *Amanita vaginata* var. *fulva* カバイロツルタケ
- 42 *Amanita hemibapha* タマゴタケ

- 43 *Amanita imazekii* ミヤマタマゴタケ
- 44 *Amanita longistriata* タマゴテングタケモドキ
- 45 *Amanita virosa* ドクツルタケ
- 46 *Amanita porphyria* コテングタケ
- 47 *Amanita citrina* var. *citrina* コタマゴテングタケ
- 48 *Amanita citrina* var. *alba* シロコタマゴテングタケ
- 49 *Amanita flavipes* コガネテングタケ
- 50 *Amanita abrupta* タマシロオニタケ
- 51 *Amanita* sp. ヒメテングタケ (仮称)
- 52 *Macrolepiota procera* カラカサタケ
- 53 *Melanophyllum* sp. アカヒダカラカサタケ近縁種
- 54 *Lepiota clypeolaria* ワタカラカサタケ
- 55 *Cystoderma* sp. シワカラカサタケ属
- 56 *Hypholoma fasciculare* ニガクリタケ
- 57 *Hypholoma capnoides* クリタケモドキ
- 58 *Pholiota destruens* キッコウスギタケ
- 59 *Pholiota aurivella* スメリスギタケモドキ
- 60 *Pholiota astragalina* アカツムタケ
- 61 *Pholiota lenta* シロナメツムタケ
- 62 *Pholiota* sp. スギタケ属
- 63 *Kuehneromyces mutabilis* センボンイチメガサ
- 64 *Strophariaceae* sp. モエギタケ科
- 65 *Inocybe fastigiata* オオキノハダトマヤタケ
- 66 *Inocybe* sp. No 1 アセタケ属 No 1
- 67 *Inocybe* sp. No 2 アセタケ属 No 2
- 68 *Hebeloma sacchariolum* ヒメワカフサタケ
- 69 *Rozites caperata* ショウゲンジ
- 70 *Cortinarius claricolor* ツガタケ
- 71 *Cortinarius claricolor* var. *turmalis* オオツガタケ
- 72 *Cortinarius tenuipes* ニセアブラシメジ
- 73 *Cortinarius caesiocyaneus* アサギフウセンタケ
- 74 *Cortinarius cyanites* アイカシワギタケ
- 75 *Cortinarius pholideus* ササクレフウセンタケ
- 76 *Cortinarius bolaris* アカツブフウセンタケ
- 77 *Cortinarius salor* ムラサキアブラシメジモドキ
- 78 *Cortinarius violaceus* ムラサキフウセンタケ
- 79 *Cortinarius* sp. ムラサキフウセンタケ近縁種
- 80 *Cortinarius hemitrichus* シラガツバフウセンタケ
- 81 *Cortinarius bovinus* サザナミツバフウセンタケ
- 82 *Cortinarius armillatus* ツバフウセンタケ
- 83 *Cortinarius bulliardii* アカアシフウセンタケ
- 84 *Cortinarius* sp. No 1 フウセンタケ属 No 1
- 85 *Cortinarius* sp. No 2 フウセンタケ属 No 2
- 86 *Cortinarius* sp. No 3 フウセンタケ属 No 3
- 87 *Cortinarius* sp. No 4 フウセンタケ属 No 4
- 88 *Cortinarius* sp. No 5 フウセンタケ属 No 5
- 89 *Dermocybe semisanguinea* アカヒダササタケ
- 90 *Dermocybe* sp. ササタケ属
- 91 *Gymnopilus spectabilis* オオワライタケ
- 92 *Gymnopilus* sp. No 1 チャツムタケ属 No 1
- 93 *Gymnopilus* sp. No 2 チャツムタケ属 No 2
- 94 *Phaeocollybia christinae* ナメニセムクエタケ
- 95 *Phaeocollybia festiva* カワムラジンガサタケ
- 96 *Phaeocollybia* sp. カワムラジンガサタケ近縁種
- 97 *Clitopilus prunulus* ヒカゲウラベニタケ

98 <i>Entoloma staurosporum</i>	ミイノモミウラモドキ
99 <i>Entoloma</i> sp.	キイボカサタケ近縁種?
100 <i>Entoloma</i> sp.	イッポンシメジ属
101 <i>Paxillus involutus</i>	ヒダハタケ
102 <i>Chroogomphus tomentosus</i>	フサクギタケ
103 <i>Gyrodon lividus</i>	ハンノキイグチ
104 <i>Boletinus cavipes</i>	アミハナイグチ
105 <i>Suillus spraguei</i>	ベニハナイグチ
106 <i>Suillus spectabilis</i>	キノボリイグチ
107 <i>Suillus laricinus</i>	シロヌメリイグチ
108 <i>Suillus grevillei</i>	ハナイグチ
109 <i>Suillus placidus</i>	ゴヨウイグチ
110 <i>Suillus tomentosus</i>	ワタゲヌメリイグチ
111 <i>Suillus</i> sp.	ワタゲヌメリイグチ近縁種
112 <i>Xerocomus chrysenteron</i>	キッコウアワタケ
113 <i>Xerocomus obscurebrunneus</i>	ミヤマアワタケ
114 <i>Xerocomus</i> sp.	アワタケ属
115 <i>Chalciporus piperatus</i>	コショウイグチ
116 <i>Boletus</i> sp.	ムラサキヤマドリタケ近縁種
117 <i>Boletus subvelutipes</i>	アメリカウラベニイロガワリ
118 <i>Boletus</i> sp.	アメリカウラベニイロガワリ近縁種
119 <i>Boletus</i> sp.	ヤマドリタケ属
120 <i>Tylopilus chromapes</i>	アケボノアワタケ
121 <i>Leccinum extremiorientale</i>	アカヤマドリ
122 <i>Leccinum niveum</i>	シロヤマイグチ
123 <i>Leccinum scabrum</i>	ヤマイグチ
124 <i>Leccinum variicolor</i>	アオネノヤマイグチ
125 <i>Russula eburneoareolata</i>	ツギハギハツ
126 <i>Russula compacta</i>	アカカバイロタケ
127 <i>Russula foetens</i>	クサハツ
128 <i>Russula senecis</i>	オキナクサハツ
129 <i>Russula cyanoxantha</i>	カワリハツ
130 <i>Russula</i> sp.	キナコハツ (仮称)
131 <i>Russula</i> sp. No 1	ベニタケ属 No 1
132 <i>Russula</i> sp. No 2	ベニタケ属 No 2
133 <i>Russula</i> sp. No 3	ベニタケ属 No 3
134 <i>Russula</i> sp. No 4	ベニタケ属 No 4
135 <i>Russula</i> sp. No 5	ベニタケ属 No 5
136 <i>Lactarius volemus</i>	チチタケ
137 <i>Lactarius lignyotus</i>	クロチチタケ
138 <i>Lactarius quietus</i>	チョウジチチタケ
139 <i>Lactarius hygginus</i>	ヌメリアカチチタケ
140 <i>Lactarius porninsis</i>	カラマツチチタケ
141 <i>Lactarius torminosus</i>	カラハツタケ
142 <i>Lactarius chrysorrheus</i>	キチチタケ
143 <i>Lactarius laeticolorus</i>	アカモミタケ
144 <i>Lactarius</i> sp.	アカアシボソチチタケ (仮称)
145 <i>Craterellus cornucopioides</i>	クロラッパタケ
146 <i>Multiclavula mucida</i>	シラウオタケ
147 <i>Ramaria</i> sp.	ホウキタケ属
148 <i>Gomphus floccosus</i>	ウスタケ
149 <i>Xylobolus</i> sp.	カタウロコタケ属
150 <i>Stereopsis burtianum</i>	ハナウロコタケ
151 <i>Mycoacia capelandii</i>	サガリハリタケ
152 <i>Hericiium ramosum</i>	サンゴハリタケ

153 <i>Hydnum repandum</i>	カノシタ
154 <i>Hydnellum suaveolens</i>	ニオイハリタケ
155 <i>Hydnellum caeruleum</i>	ニオイハリタケモドキ
156 <i>Polyporus badius</i>	アシグロタケ
157 <i>Laetiporus sulphureus</i> var. <i>miniatus</i>	マスタケ
158 <i>Tyromyces chioneus</i>	オシロイタケ
159 <i>Oligoporus caesius</i>	アオヅメタケ
160 <i>Piptoporus betulinus</i>	カンバタケ
161 <i>Daedalea dickinsii</i>	ホウロクタケ
162 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
163 <i>Daedaleopsis purpurea</i>	ミイロアマタケ
164 <i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
165 <i>Fomes fomentarius</i>	ツリガネタケ
166 <i>Onnia scaura</i>	サジタケ
167 <i>Inonotus vallatus</i>	アズマタケ
168 <i>Inonotus obliquus</i>	カバノアナタケ
169 <i>Crucibulum leave</i>	ツネノチャダイゴケ
170 <i>Calvatia fragilis</i>	タマノウタケ
171 <i>Lycoperdon perlatum</i> s.l.	ホコリタケ (広義)
172 <i>Lycoperdon pyriforme</i>	タヌキノチャブクロ
173 <i>Lycoperdon spadiceum</i>	キホコリタケ
174 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
175 <i>Pseudohydnum gelatinosum</i>	ニカワハリタケ
176 <i>Calocera viscosa</i>	ニカワホウキタケ
177 <i>Leotia lubrica</i> f. <i>kawamurae</i>	アオガシラズキンタケ
178 <i>Chlorociboria aeruginosa</i>	ロクショウグサレキン
179 <i>Bisporella sulfurina</i>	モエギビョウタケ
180 <i>Ombrophila</i> sp.	オムプロフィラ属
181 <i>Sarcoscypha</i> sp.	ベニチャワンタケ近縁種
182 <i>Ophiocordyceps oxycephala</i>	トガリスズメバチタケ
183 <i>Hypomyces</i> sp.	タケリタケ

第522回例会 吉田山菌類観察会

日 時：2013年10月26日 (土) 曇

17名参加

場 所：京都市 吉田山
(雑木林)

同定種数：61件51種 (科・属までの同定を含む) 採集きのこは例年通り「第22回きのこ展」会場に持ち込まれ、同定後に会場に展示された。

(榎本輝彦)

観察品リスト

1 <i>Lentinellus ursinus</i>	イタチナミハタケ
2 <i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ
3 <i>Tricholoma ustale</i>	カキシメジ
4 <i>Collybia</i> sp.	モリノカレバタケ属
5 <i>Xerula sinopudens</i>	コブリビロードツエタケ
6 <i>Marasmius pulcherripes</i>	ハナオチバタケ
7 <i>Marasmius siccus</i>	ハリガネオチバタケ
8 <i>Marasmius</i> sp.	ウマノケタケ近縁種

9 <i>Mycena haematopoda</i>	チシオタケ
10 <i>Hydopus atrialbus</i>	ヒロヒダタケモドキ
11 <i>Amanita farinosa</i>	ヒメコナカブリツルタケ
12 <i>Pluteus cervinus</i>	ウラベニガサ
13 <i>Pluteus plautus</i>	フサスジウラベニガサ
14 <i>Pluteus castrii</i>	ウラベニガサ属の1種
15 <i>Agaricus</i> sp.	ハラタケ属
16 <i>Lacrymaria velutina</i>	ムジナタケ
17 <i>Psathyrella gracilis</i>	ナヨタケ
18 <i>Hypholoma fasciculare</i>	ニガクリタケ
19 <i>Crepidotus badiofloccosus</i>	クリゲノチャヒラタケ
20 <i>Suillus luteus</i>	ヌメリイグチ
21 <i>Chalciporus piperatus</i>	コショウイグチ
22 <i>Cantharellus</i> sp.	アンズタケ属
23 <i>Deflexila fascicularis</i>	シダレハナビタケ
24 <i>Clavulina</i> sp.	カレエダタケ属
25 <i>Stereum ostrea</i>	チャウロコタケ
26 <i>Stereum gausapatum</i>	チウロコタケ
27 <i>Phanerochaete crossa</i>	カミウロコタケ
28 <i>Polyporus alveolarius</i>	ハチノスタケ
29 <i>Polyporus badius</i>	アシグロタケ
30 <i>Laetiporus sulphureus</i>	アイカワタケ
31 <i>Oligoporus caesius</i>	アオゾメタケ
32 <i>Postia japonica</i>	ヤマトオシロイタケ
33 <i>Porodisculus pendulus</i>	ヌルデタケ
34 <i>Pycnoporus coccineus</i>	ヒイロタケ
35 <i>Trametes orientalis</i>	クジラタケ
36 <i>Trametes versicolor</i>	カワラタケ
37 <i>Trichaptum bifforme</i>	ハカワラタケ
38 <i>Daedaleopsis styracina</i>	エゴノキタケ
39 <i>Fomitopsis pinicola</i>	ツガサルノコシカケ
40 <i>Ganoderma lucidum</i>	マンネンタケ
41 <i>Cyclomyces fuscus</i>	ワヒダタケ
42 <i>Geastrum fimbriatum</i>	シロツチガキ
43 <i>Geastrum triplex</i>	エリマキツチグリ
44 <i>Calvatia craniiformis</i>	ノウタケ
45 <i>Lycoperdon perlatum</i>	ホコリタケ
46 <i>Lycoperdon</i> sp.	ホコリタケ属
47 <i>Kobayasia nipponica</i>	シラタマタケ
48 <i>Tremella foliacea</i>	ハナビラニカワタケ
49 <i>Tremella iduensis</i>	キイロニカワタケ
50 <i>Auricularia polytricha</i>	アラゲキクラゲ
51 <i>Hypoxylon truncatum</i>	クロコブタケ

第524回例会 大泉緑地菌類観察会

日 時：2013年11月3日（日）曇一時小雨
 19名参加
 場 所：堺市 大泉緑地
 （コナラ中心の雑木林）

例年に比べかなり遅くとも発生していたテングツルタケやキッコウアワタケなどをはじめ、カニノツメやツマミタケなどの腹菌類も多く見られた。イロガワリホコリタケ *Calvatia rugosa* の匂いなどを皆で確認した。（佐久間大輔）

観察品リスト

1 <i>Pleurotus ostreatus</i>	ヒラタケ
2 <i>Lyophyllum decastes</i> ? (<i>Clitocybe</i> sp. ?)	ハタケシメジ? (フシヨクシメジ (仮称) ?)
3 <i>Clitocybe</i> sp.	カヤタケ属
4 <i>Lepista nuda</i>	ムラサキシメジ
5 <i>Armillariella</i> sp.	ヒトリナラタケ類似種
6 <i>Mycena</i> sp.	クヌギタケ属
7 <i>Amanita ceciliae</i>	テングツルタケ
8 <i>Chlorophyllum molybdites</i>	オオシロカラカサタケ
9 <i>Agaricus</i> sp.	ナカグロモリノカサ類似種
10 <i>Lepiota</i> sp.	キツネノカラカサ属
11 <i>Coprinus comatus</i>	ササクレヒトヨタケ
12 <i>Agrocybe farinacea</i> ?	ツバナシフミヅキタケ?
13 <i>Agrocybe cylindracea</i>	ヤナギマツタケ
14 <i>Stropharia rugosoannulata</i>	サケツバタケ
15 <i>Hypholoma gracile</i> ?	ニガクリタケモドキ?
16 <i>Hypholoma squamosum</i> var. <i>thraustum</i>	カバイロタケ
17 <i>Inocybe leptoclada</i> ?	モモエノトマヤタケ?
18 <i>Entoloma</i> sp.	イッポンシメジ属
19 <i>Xerocomus chrysenteron</i>	キッコウアワタケ
20 <i>Russula chloroides</i>	アイバシロハツ
21 <i>Russula sororia</i> ?	キチャハツ?
22 <i>Russula</i> sp. ?	ベニタケ属?
23 <i>Polyporus alveolarius</i>	ハチノスタケ
24 <i>Daedaleopsis tricolor</i>	チャカイガラタケ
25 <i>Scleroderma</i> sp.	ニセショウロ属
26 <i>Calvatia rugosa</i>	イロガワリホコリタケ
27 <i>Calvatia cyathiformis</i>	スミレホコリタケ
28 <i>Lycoperdon pusillum</i>	チビホコリタケ
29 <i>Linderia bicornata</i>	カニノツメ
30 <i>Lysurus mokusin</i>	ツマミタケ
31 <i>Xylaria liquidamber</i>	和名なし

会報記事投稿のご案内

～皆様の投稿をお待ちしております～

- ◇原則として、投稿資格は本会会員に限ります（編集委員会から依頼する場合は例外とします）。
- ◇キノコやカビに関する記事、図、写真やイラスト、本誌に関するご意見などをお寄せください。
- ◇原稿の量は問いませんが、1600～2000字を目処にまとめていただくと幸いです。もちろん、これより多くても少なくてもかまいません。
- ◇図やイラストは黒インクで、刷り上がりの1.5倍程度の大きさでお描きください。カラーでの印刷はできませんので、白黒でも見やすい原稿の作成をお願いします。
- ◇写真の掲載を希望される場合は、あらかじめ編集委員会までおたずねください。（写真製版料をご負担いただく場合があります）
- ◇原稿は下記の送付先にお送りください。別紙に著者名、連絡先（住所・電話番号・FAX番号・電子メールアドレス）を書いて添付ください。ワープロなどをお使いの場合は、フロッピーディスクなどにテキスト形式のファイルで保存されたものを添付いただくようお願いいたします。また、電子メールを利用

- できる場合は、電子メールでの投稿も歓迎いたします。
- ◇原稿の採否、掲載の順序、レイアウト等は、編集委員会の決定にお委せください。
- ◇編集委員会は、著者の原稿中の字句、表、図、写真などのスタイルの統一や変更を求めることがあります。文章の用法上、あるいは、文法上の誤り、その他の修正は編集委員会にお委せください。
- ◇原稿には表題、著者名、本文のほかに必要な場合は引用文献（あるいは参考文献）をあげてください。
- ◇著者校正は、初稿だけとし、原稿正本とともに返送ください。
- ◇掲載された原稿はお返しませんが、図、写真に限り著者校正の際にお返しします。

<原稿送付先>

関西菌類談話会 会報編集委員会

正井俊郎

〒673-0844 明石市東野町2043-15-101

TEL : 078-917-3923

E-mail : toshiro@mug.biglobe.ne.jp

編集委員：天野典英，橋本貴美子，丸山健一郎，
正井俊郎[○]，森本繁雄，斎木達也，
(abc順・[○]印は編集委員長)

表紙によせて

シロクモノコタケ *Arachnion album* Schwein.

あまり特徴的ではない胞子の形状ですが、シロクモノコタケは非常に珍しいきのこなので胞子を撮影しました。水封、油浸対物レンズ使用。

2016年6月26日 大阪市立長居植物園での第559回例会 ワークショップ時に採集した標本を撮影 小寺祐三

編集後記

昨年1月役員会において、字を大きくすることができ、内容量とコストの関係でも有利、他の雑誌もB5版から、A4版に変更されているなどの理由で、32号からA4版に変更することとし、総会でも説明させていただいたところですが、会員に周知していなかったことについて、遅くなりましたが、お詫びいたします。また、定期発行のお約束が果たせていなくて、心苦しく思いますが、引き続き、原稿の投稿にご協力をいただきますようお願いいたします。
(正井俊郎)

関西菌類談話会会報 No. 33

平成29年2月10日 印刷

平成29年2月10日 発行

編 集 関西菌類談話会会報編集委員会

発 行 関西菌類談話会

発 行 所 関西菌類談話会

ホームページ <http://kmc-jp.net/>

事務局 〒616-8182 京都市右京区太秦北路町3-3 309号

北 岸 阿 佐 子 方

郵便振替口座 00950-0-83129

印刷所 中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る